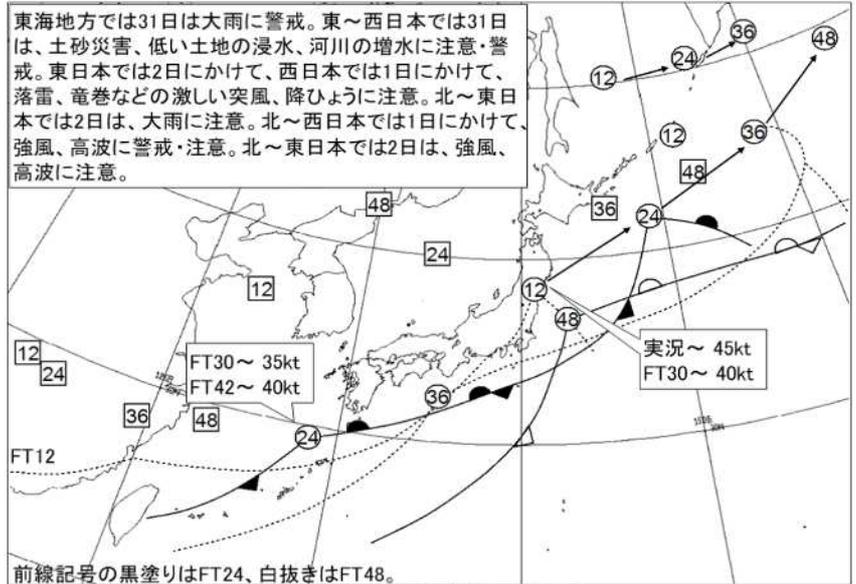


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5580m付近のトラフに対応する山陰沖の低気圧が前線を伴い東北東進。前線は東日本から南西諸島付近へのびている。東シナ海では前線近傍で、猛烈な雨を解析。低気圧や前線近傍で発雷を多数検知し、メソサイクロンを検知。
- ② 山東半島付近の高気圧が東へ移動。日本のはるか東の高気圧が東へ移動。①の低気圧とこれらの高気圧の間で気圧の傾きが急となり、東～西日本では15m/s前後の風を観測し、大しけの所がある。
- ③ 500hPa 5700m付近のトラフが中国奥地を東進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の山陰沖の低気圧は、4月1日朝までに本州を通過し北海道東方海上付近へ進み、その後、千島の東へ進む。1項③のトラフが東進する影響で、1日朝までに東シナ海で前線上に低気圧が発生し、その後、低気圧は次第に500hPa 5580m付近のトラフの深まりに対応しながら発達する。低気圧は、2日朝にかけて本州の南岸付近を東北東進し、関東の東の海上へ進み、前線は31日夜にかけて、日本の東から本州の南岸付近を通り南西諸島へのびて、その後、日本の東から日本の南へ進む。低気圧や前線に向かう850hPa 相当温位 336K以上の下層暖湿気の流入の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴う激しい雨の降る所がある。東海地方では31日は大雨に警戒。東～西日本では31日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。東日本では2日にかけて、西日本では1日にかけて、落雷、竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。また、31日の大雨の影響で、1日から2日の降水で土砂災害の危険度が高まる所があることに留意。北～東日本では2日は、大雨に注意。山陰沖の低気圧や本州の南岸付近を東北東進する低気圧の影響で、非常に強い風が吹き、大しけとなる所がある。北～西日本では1日にかけて、強風、高波に警戒・注意。
- ② 2日は、大陸から2日朝にかけて沿海州付近へ移動する高気圧や華中から東シナ海へ移動する高気圧と2項①の日本の東へ進む低気圧との間で気圧の傾きが急となり、強い風が吹き波が高くなる所がある。北～東日本では2日は、強風、高波に注意。気温の上昇や2項①の降水の影響で雪解けが進む所がある。北日本～東日本の多雪地では2日にかけて、なだれ、融雪に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(18時からの24時間)：九州南部120、奄美100mm。
- ② 波浪(明日まで)：東海・近畿6、関東・伊豆諸島5、東北・四国4、北海道・中国・九州北部・九州南部・奄美3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。